

1. 園の保育・教育目標

心身ともに健康で 明るく思いやりのある子
 ・元気に体を動かす子 ・思いやりのある子 ・夢中になって遊ぶ子

2. 前年度園評価や幼児教育指導の方針と重点などを基にした、
園経営の重点及び具体的方策

・遊びの中で、人との関わりや言葉を育て、よさを取り入れて遊びが継続発展していけるように子どもたちとの話し合いの時間を確保し、環境や援助の工夫に取り組む。
 ・子どものよい姿を伝えたり、情報機器等を積極的に活用したりして保護者に園の取り組みを理解してもらい、子どもの成長を共に喜び合う。

3. 評価項目の達成状況及び取組状況

短期目標	自己評価	保護者評価
(1) 基本的生活習慣を身に付け、丈夫な身体作りをする。	85%	95%
(2) 相手の気持ちに気付き、役に立つ喜びが感じられるようになる。	83%	85%
(3) その子らしい自己表現が楽しめるよう工夫する。	68%	87%
(4) 保護者に園の様子を伝えながら、保護者の話も聞く。	80%	80%
(5) 地域人材、場の交流を図る	68%	68%
(6) 全職員が自分の考えを積極的に話せる雰囲気を作り出す。	72%	
(7) 園内研修をし、環境構成や援助の視点を分析し、指導力をつける。	65%	
(8) 様々な事態に備えて危機管理意識を高める。	78%	78%

4. 自己評価結果の概要

・個々の興味・関心、発達に合わせて遊びを構成し、友達と関わっていく中で、体や心を育て、言葉で気持ちを伝えていくことの大切さを知らせた。
 ・友達からの刺激を受けてチャレンジする意欲が高まり繰り返し遊ぶようになった。その中で、表情や言葉のやりとりが豊かになっていった。
 ・保護者にもよさを伝えるようにし、行事や情報発信の方法を工夫した。施設利用や地域散策を通して、地域の人と挨拶や言葉を交わす温かい関係性が広がり、野菜や果物の収穫体験などの貴重な経験も生まれた。

5. 保護者による評価及び意見の概要

・保育者が気持ちよく受け入れてくれ、時間を守り登園できるようになった。
 ・身体を動かして遊ぶ時間が十分に確保されており、子どもが興味あることを繰り返し遊ぶようになった。
 ・子どもの成長の姿を見たり、話したりする機会が増え、保育者と共に喜び、考え合えた。
 ・保育者や友達との関わりの中で、年齢と共にしぐさや表情等でやりとりができるようになってきているが、自分の気持ちを言葉に出して伝えたり、折り合いをつけたりしていくことが難しいと感じている。

6. 関係者による評価及び意見の概要

・子どもがのびのびとしていて、身体を使ってこの時期にしかできないことが保育にたくさん取り入れている。
 ・園内で安心感のある関係が築かれているので、自分を出出できる子に育っていると感じる。小学校生活に向けて、身体作りや安全教育を大切に、連携としては行事やカリキュラムをお互いに知りながら、コミュニケーションマナーを身に付けさせていくとよい。
 ・地域交流やキッズビュー等の活用について、今後も継続をしてほしい。

7. 今後に向けて

・友達と遊びや活動を進めていくことができるように、“話を最後まで聞いてから話す”等の、話し方のマナーを守った話し合いを大切に、気持ちの理解や伝え方を知らせていく。
 ・保育者間の連携交流を深め、保育観や技術を学び、自己表現ができる遊びの環境工夫や個々に応じた援助をする。
 ・安心、安全な環境を保ち、様々な事態時における体制を絶えず見直す。
 ・園外に出掛けて地域の交流を深め、感動体験が得られるようにする。